



人員降下訓練における横田基地外へのパラシュートの落下について（要請）

平成 30 年 4 月 10 日、北関東防衛局から「4 月 10 日午後 5 時ごろ、横田基地において、訓練中のパラシュートドロップ隊員 1 名が異常を感じたため、パラシュートの一部が羽村第三中学校に落下した。」との情報提供があった。

平成 29 年 11 月には物料投下訓練中にパラシュートが外れて地面に落下したほか、同年 7 月に横田基地所属 C-130H が、同じく 12 月には C-130 J がそれぞれ部品を遺失するなど、度重なる事故が発生している。

今回の事故で、パラシュートの落下地点は瑞穂町の近接地であり、落下までの間には瑞穂町上空を通過したものと想定できる。人的にも物的にも直接的な被害が出なかったことは不幸中の幸いであるが、横田基地周辺は人口が密集した市街地であり一步間違えれば人命に関わる重大な事故につながる事態である。また、国道 16 号、新青梅街道、J R 八高線などを走る自動車や電車で落下すれば、間接的な二次被害を招きかねないものである。

瑞穂町並びに瑞穂町議会では、これまでも C-130 輸送機の市街地上空における旋回及び低空飛行訓練の中止を毎年求めている中で、このような事態が発生したこと、加えて具体的再発防止策が示されないまま 4 月 12 日に人員降下訓練が再開されたことは、極めて遺憾である。

今回パラシュートが基地外に落下したことに対する原因究明を行い、かつ基地外への影響を抑えるための再発防止策を講じられるよう求める。

平成 30 年 4 月 19 日

在日米軍横田基地第 374 空輸航空団司令官 ケネス・E・モス大佐 殿

東京都西多摩郡瑞穂町

町 長 杉 浦 裕 之



東京都西多摩郡瑞穂町議会

副議長 下 野 義 子



東京都西多摩郡瑞穂町議会

基地対策特別委員会

委員長 原 成 兆

